

石原小教育フェスタ



自主実践発表会

あいさつ

第25代校長 関根 達郎

ポストコロナの時代が始まりました。予測不能な時代でも、たくましく生きて、未来を創る児童を育成する教育が大切です。
 コロナ禍で工夫しながら教職員で創った「石原小の新しい教育システム」をみなさんに発表するために「教育フェスタ」を開催します。
 この発表はひと時の花火ではありません。150周年をおかえた石原小学校の新たなスタートの炎です。今日お越しのみなさまと「これから必要な教育とは何か」をともに考えていきたいと思っています。本日はどうぞよろしくお願い致します。

1. 研究主題

ポストコロナの教育へのチャレンジ

～ オーセンティックな授業作りと楽しく学ぶ児童の育成～

学校がすき！
友達も先生もすき！

2. 研究の構想

楽しく学ぶ学校 強く正しく睦ましくを实践できる子供たちへ

【①濃縮授業・プログラミング】

わかる！ できる！ もっとやりたい！

練習問題をいっぱいやって、先生たちが〇を付けてくれる。できないときも教えてくれてうれしい！

まちがっても何度でもチャレンジ！
できるようになるよ。一緒に考えよう。

【B: ICT・情報教育】

タブレットで計算問題たくさんできる。
アナログとデジタルを両立させて、
バランスよく学習している。

情報の性質 学校の行事もリモート

この情報はだれが発信しているのかな？
確認して、どうするか自分で決めよう！

【C: 石原学・熊谷学】

「熊谷修学旅行」
私たちは地域の方に
応援されている。

お囃子体験楽しい！
うちわ祭り行こう。

私たちの熊谷。
魅力いっぱい！

私たちの
「石原」大すき！

いつでも、石原小の
子供たちの応援団。
協力するよ！

【D: 睦ましくプロジェクト】

クラスみんなで話し合って
仲よくなる活動しようね。

だれもが心地
よい教室

困ったことも
自分たちで解決しよう！

信頼できる仲間
「みんながってみんないい！」

一人一人が大切！

ポストコロナの教育へのチャレン

4つのプロジェクト

研究の経緯

< 新しい学校へのチャレンジ >

- ① 学校の休業以降、
授業・行事や会議の制限
- ② 学校をゼロベースで作直す
- ③ 延期せず、対策をとって実施
- ④ コロナ後はコロナ前に戻さない



【C 石原学・熊谷学】

【石原学・熊谷学】

地域を学び、郷土愛を育む
 ー郷土自慢を語る児童の育成を目指してー
 ○ゲストティーチャーによる授業
 ○バーチャル社会科見学 ICT活用
 地域一体となって児童を育てる！

全ての学年で地域学習

表 年度当初の計画案	
学年	単元名 (石原学・熊谷学)
1年生	学校探検 石原小の歴史を知ろう (石原学)
2年生	街探検 (石原学)
3年生	学区探検 五家宝体験 商店の仕事 (石原学・熊谷学)
4年生	3地区合同お囃子体験会 うちわ祭り体験 (石原学・熊谷学)
5年生	復活！石原米を育てよう 情報 (FM熊谷と連携して) (石原学・熊谷学)
6年生	新しい修学旅行 (市内巡り) 鎌倉-熊谷次郎直実 熊谷空襲 (石原学・熊谷学)

1年生から6年生まで系統的に学習

【地域教材をいかして】



【D 睦ましくプロジェクト】

学級活動

学級活動(1) **充実した学級経**
 「児童が自分たちの学級や学校の生活をより楽しくするため」

- 議題を見付ける
- 話し合う
- 協力して実践

① 事前の活動の充実

提案者の思い大切に！ 思いをみんなで共有！

② 本時の活動の充実

③ 事後の活動の充実

振り返りが大切。次への課題は？

学級活動(2) **一人一人 みんな大切！**
 「人間関係作りに重点」
安心できる教室 **クラスの役に立っている**

特別支援教育

ユニバーサルデザイン

特別支援教育支援員による **見守り、適切な支援**

ドリル・プリント・学習アプリなど **児童の実態にあった方法での学習**

児童に寄り添った指導

年度当初のABプラン作成研修

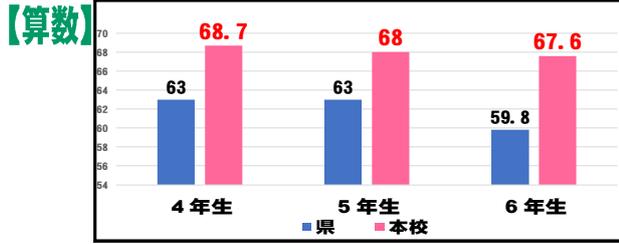
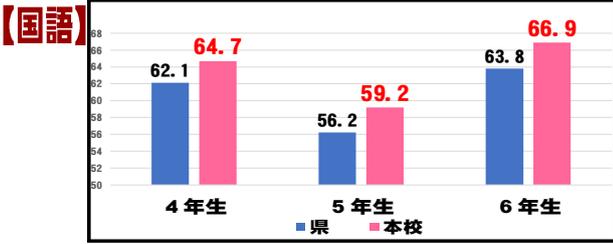
充実した交流学習 **特別支援教育の情報発信**

インクルーシブ教育システム

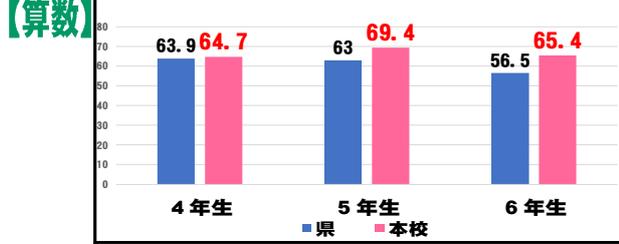
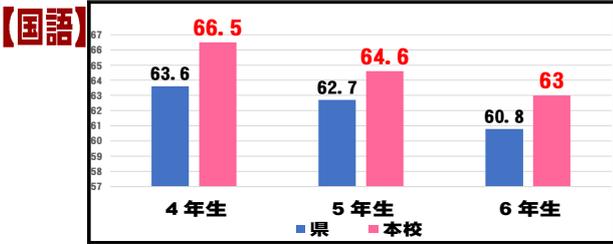
違いを認める **教室はみんなの居場所**
 仲間をつくる **目標はさまざま**
できる子もできない子も一緒 **排除しない**

4. 各調査結果

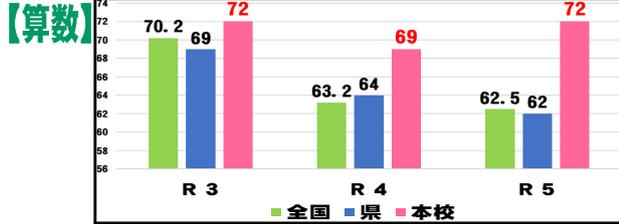
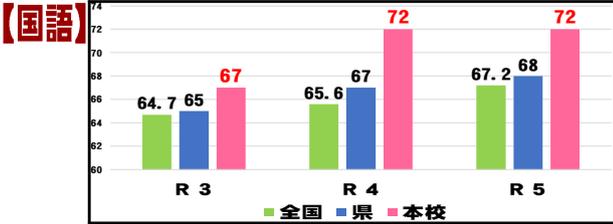
学力 R4 埼玉県学力・学習状況調査（正答率）



R5 埼玉県学力・学習状況調査（正答率）

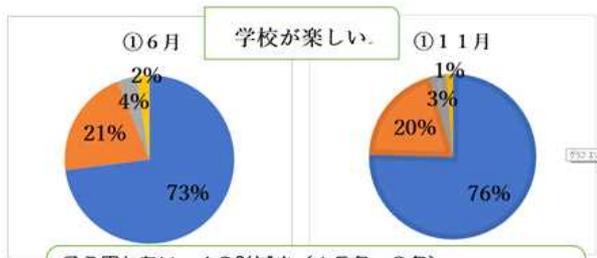


全国学力・学習状況調査（正答率）6年生



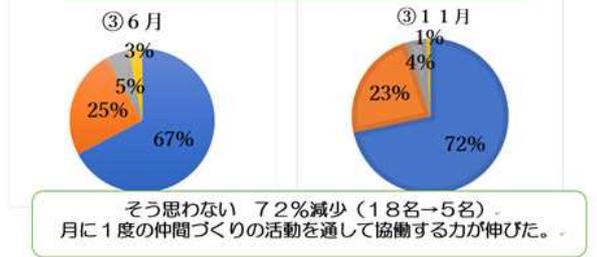
児童アンケートより

- 1 そう思う 2 すこしそう思う
3 あまりそう思わない 4 そう思わない



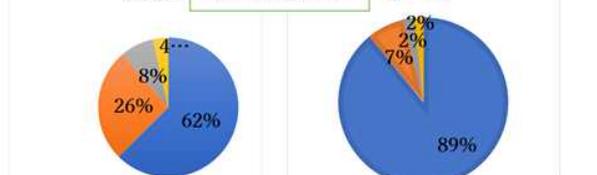
そう思わない 46%減少（15名→8名）。先生と児童、児童と児童の関係づくりに重点を置くことにより学校が楽しい児童の割合が増加した。

クラスの友達と、協力して何かを行うことができる。



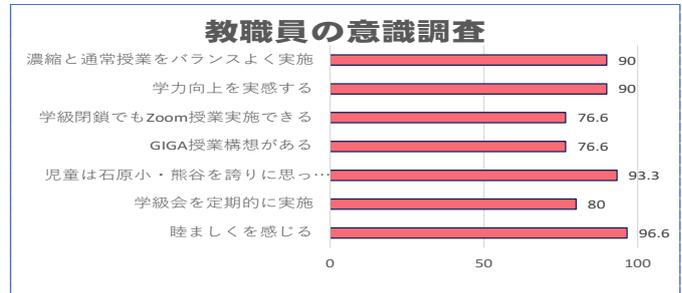
そう思わない 72%減少（18名→5名）。月に1度の仲間づくりの活動を通して協働する力が伸びた。

⑨ 6月 休み時間は楽しい



そう思う 27%増加。6月は教室に一人でいる児童が多かった。仲間づくりの取組により仲間を誘い一緒に遊ぶ児童が増えた。

教員アンケートより



5. 成果と課題

- 濃縮授業の実施により、練習問題で習熟を図ることができた。1月で学習内容を終わらせることができ、2・3月は個に応じた学習を展開し、学力が高まっている。
- 石原学・熊谷学を教育計画に位置付け、担任が変わっても同じように実施し、地域を知る活動が確実に実施できるようになった。
- 石原学や熊谷学を学び、地元のお囃子等に参加する児童が増えた。さらに、地域の方と触れ合い、児童は「石原小大好き!」「私たちの地域の自慢は…」と胸を張って言えるようになってきている。
- 情報の知識を学び、「どう判断するか」を、児童自身が真剣に考え向き合うようになってきている。
- ICT活用研修の学びは、今後の教員生活に役立つものとなり、自信になっている。
- 石原や熊谷市の学習をし、「石原大好き、熊谷のここが自慢」を胸を張って言える児童が増えている。さらに地域の方の協力を得て、共に学校を創っていくという思いが高まっている。
- 定期的な学級会と実践を通し、児童が自分たちの力で「何かをつくる」という意欲が高まっている。